

道小だより

第577号

2024年6月

藤井寺市立道明寺小学校

人権教育

「個性」＝「もちあじ」 ちがいを認め合える集団に

人にはそれぞれ、ちがい＝「個性」があります。

人それぞれの「個性」がいかされて社会ができています。一人ひとりがかかけがえのない存在で、誰かが優れていたり劣っていたりするわけではありません。

わたしたちは、そうした多様な「個性」を持った人たちの中であらわしているにもかかわらず、時として他の人と出会ったときに、ちがいにとまどったり、ちがいを恐れたり、ちがいから逃げたりしてしまうことがあります。まわりと同じでないといけないと思いきこどもたちも多く、自分の個性に自信をなくしてしまうこともあります。

道明寺小学校の学校教育目標は「個性が伸びる学校です」。そこで本校では日常的に「個性」を「もちあじ」と表現しています。「もちあじ」とは、その人をつくっているあらゆる要素のことをいいます。好きなこと、きれいなこと、得意なこと、苦手なこと、感情の表し方、身体的特徴、今までの経験など、そのすべてがその人の大切な「もちあじ」と考えます。6年間を通して自分や友だちの「もちあじさがし」に取り組むようにしています。

「もちあじさがし」の第一歩として、まずは自分自身を大切に思い、そして周りの友だちも大切にできることが大事だと考えています。友だちを大切にするには、友だちに寄り添い、気持ちを考えていくことが必要です。友だちが困っている姿を放っておかないために、道小では、誰もが使える方法の一つとして、毎年、全学年に、“まほうのこぼ”を伝えています。今年度も1年生との対面式の時に全校の前で伝えました。“まほうのこぼ”とは、「どうしたの?」「大丈夫?」という言葉です。何気ないひとことですが、自然と相手に寄り添う気持ちが表れています。このような言葉が自然に出てくるような子どもたちでいっぱい希望の学級、学校になってほしいと願っています。

人の気持ちを考えるには、日々の様々な出来事を、一緒に笑う、おこる、楽しむなどの気持ちを共有し合える経験が必要です。共有することで、自分の全てを受け止めてもらえるという安心感が生まれるとともに、人の気持ちを考えることにつながるようになるのではないのでしょうか。また、

学習の中で、自分の考えを伝え合い、受け止め合うことで、「なるほど!」「そんな考えもあるなあ」「考えが似ているな」などと心が動くことで、考えが広がっていきます。そんな中で、「ちがいはあたりまえ」「ちがいはおもしろい」という気持ちも生まれていきます。

一人ひとりが、それぞれの「個性」＝「もちあじ」を認め合い、ちがいを豊かさにできる子どもたちに成長していけるよう、道明寺小学校では様々な取り組みを進めていきます。



△ 大人教「いま、どんなきもち?」より